

資料

下仁田・妙義地域のサル対策の記録

岩井 実

下仁田町役場農林建設課：群馬県甘楽郡下仁田町大字下仁田682

要旨：下仁田・妙義地域では、1970年代後半よりサルによる農作物被害が単発的にみられるようになり、その後被害は急速に拡大しつつある。そのため、被害を防止するためにサルの生態調査や追い払いや柵の設置など対策を実施してきた。こうした対策を効果的に実施するには地元住民の理解と協力が最も大切である。本稿では、下仁田・妙義地域におけるサル被害対策の取り組みと変遷について報告する。

キーワード：ニホンザル、地元コンセンサス、被害対策、下仁田町、旧妙義町（現富岡市）、群馬県

A report on counter-measures toward crop-raiding by Japanese macaques
(*Macaca fuscata*) in the Shimonita and Myogi regions

IWAI Minoru

Agricultural, Forestry, Construction Division, Shimonita town office:
682 Shimonita, Shimonita town, Gunma Prefecture

Key Words: *Macaca fuscata*, counter-measures toward crop-raiding, regional consensus, Shimonita, Myogi regions, Gunma Prefecture

はじめに

下仁田・妙義地域には古くからニホンザルが生息していたが、1970年代後半よりサルによる農作物被害が単発的にみられるようになり、その後被害は急速に拡大している。本稿では、下仁田・妙義地域におけるサル被害対策の経緯と変遷について報告する。

下仁田地区の概要

下仁田町は人口9,786人で群馬県西部に位置し長野県との県境に位置する中山間地域である(図1)。富岡市は平成19年3月に旧富岡市と旧妙義町が合併し出来た市で市内中心に富岡製糸場を有する人口54,465人の田園地域である。共に地域の特産である蒟蒻、下仁田葱、きのこと類の栽培や養蚕を中心に産業を行って来たが、近年はこれらの他にも比較

的手のかからない施設野菜や果樹等の栽培も盛んである。しかし、農業環境の激変の中で農業者の高齢化、担い手不足等により農業離れが進み耕作放棄地の増加が懸念されている。こうした状況の中、手の入らない農地や山林等に鳥獣が侵入して生息域が拡大してきている。

被害の推移

昭和50年(1975)年代前半頃までは、ハナレザル等の被害が単発的に見受けられ、被害農家が独自に対策を行っていた。昭和40(1965)年代の後半に妙義山周辺有料道路が開通したことにより同地に生息している群れへ料金所の職員や観光客が餌付けを行うようになり、人慣れた猿による被害が昭和50年代後半頃より確認され始めた。

その後、下仁田町の中小坂・上小坂地区・東野牧・本宿・南野牧・西野牧地区、富岡市の菅原地区・諸戸・大牛地区で、数



図1 下仁田町・富岡市の位置。 MAP DATA: Yahoo Japan 地図提供: マピオン

十頭の群れにより同地区で栽培されている椎茸やリング等の果樹を中心に農作物被害が出始めた。平成6年(1994)頃になると、被害も増加し始め農作物被害のみでなく家屋侵入等の生活被害も見受けられるようになった。このころから、被害農家や地区役員等からの苦情や対策を求める声が行政に出始めた。

被害防止対策の実施

下仁田町

平成6・7年度頃より、町や町議会へ有害鳥獣被害対策についての要望が提出された。要望に伴い町は、有害鳥獣駆除推進組織を設立し、第1次有害鳥獣対策協議会(現在は別構成による協議会が設立)を本部として、各5地区で支部を設立、本部や支部で対策を検討し補助事業等を活用し防除等を行ってきた。また、構成員の猟友会メンバーによる駆除隊を5隊組織し駆除対策を行ってきた。ただし、この組織は全体的な鳥獣害が減少した平成13年頃に駆除隊を残し、協議会の事業を町の農林課が引継ぐことで解散した。

富岡市

当時、妙義町に認められた被害地区は、当初は農業者単位で防除対策を行うなどしてきたが、被害が拡大してきた平成5年頃に町へ対策についての要望が出るようになってきた。

特に大牛、菅原地区で、収穫直前の農作物が食い荒らされるなどの被害が加速的に増加したことにより農業者の生産意欲を減退させ、耕作放棄地が出始めた。そのため、農作物等の被害防止を図る目的で野猿有害鳥獣対策協議会を設立し捕獲檻による捕獲や電気柵等による防除、猟友会員による被害地区のパトロールを実施し対策の成果を上げてきた。

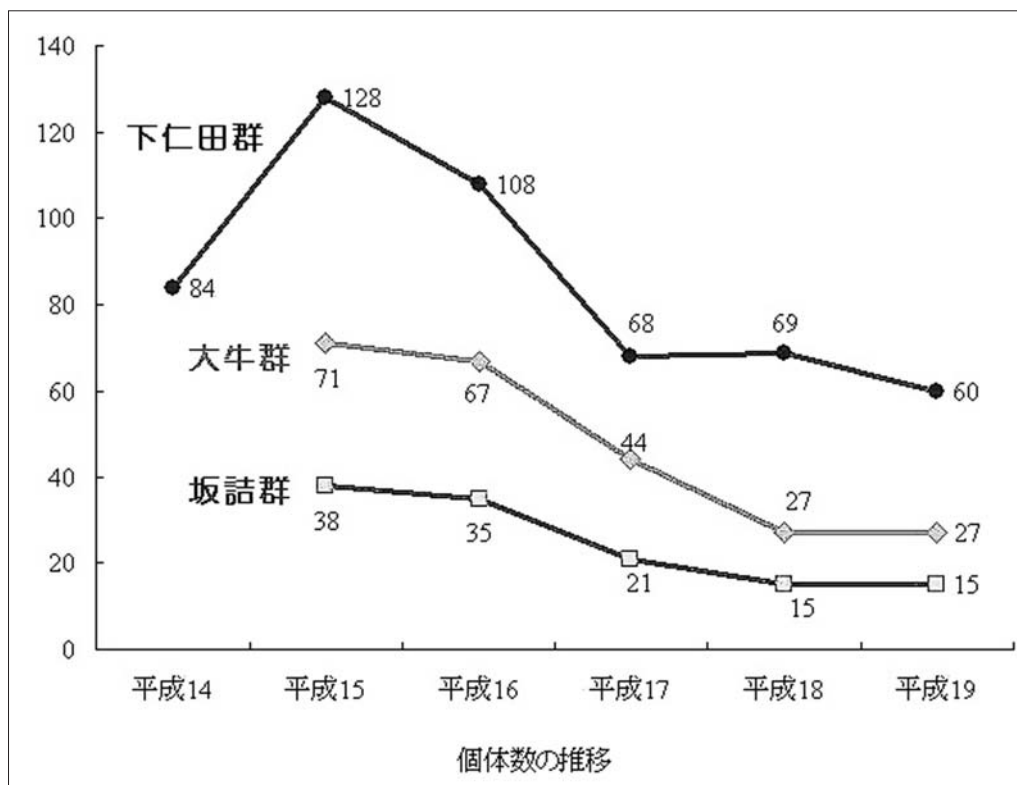


図2 個体数の推移。



図3 現時の行動域。

MAP DATA: Yahoo Japan
地図提供: マピオン

地区単位の取り組み

中小坂・上小坂地区は早くからサル対策に力を入れてきた。被害が減少した現在でこそ対策実施農家は減少したが、果樹園の周りをネットで囲い七面鳥や犬を放すなどの対策を実施するなど、一時的な被害防止効果は図られてきた。坂詰地区は他の被害地でも実績のあったネット等の設置を行うなど対策を行い、清水沢地区は地元猟友会員と協力し追い払いを行ってきた。菅原地区は電気柵や猿落等の防除資材の活用を行い、大牛地区は富岡市による集落周辺の森林整備を実施し出没しづらい環境整備を行っている。また、接近警報装置を活用した追い払いも各地区で行っている(図版1-a~c)。

生態調査・捕獲の実施

被害が拡大するにつれ、鳥獣保護員や猟友会への駆除等の依頼や要望が始め、鳥獣保護員の神戸武司氏(下仁田町)を中心に独自の生息調査が行われるようになった。調査は被害や目撃情報等の多い地区を中心に、目視にて行った。そのため、群れの行動範囲を把握することは困難であった。

捕獲についても、当初は目視できるサルを、銃器を使用して捕獲しており、これにより一時的に防除出来るものの、抜本的な被害減少には効果が見受けられない状態であった。そのため、県の機関である富岡行政事務所(現在の富岡環境森林事務所)と相談の上、平成11(1999)年度の終盤に一定の条件(これは、メスザルで発信器が取り付けられるサルが捕獲できるまで、檻で捕獲し、その他捕獲したサルは、全頭放獣する)の捕獲を猟友会に依頼した。

捕獲した数頭には発信器を取付け(表1)、テレメトリーによる遊動域調査を開始した(図版1-d, e)。平成14(2003)年度には、下仁田町、妙義町(現富岡市)、鳥獣保護員、日本獣医畜産大学(現日本獣医生命科学大学(以下、日獣大とする))野生動物学教室の羽山伸一助教授(現准教授)と相談し、同教室の安富舞氏を中心に学生による下仁田・妙義に生息す

るサルの生態調査が開始された。この調査は、今年で6年目を迎え、年3回(春、夏、冬)5~7日ほどテレメトリーによる現在地の確認や、目視による個体数(図2)、群れの構成等の確認を行うほかに、被害地の状況(被害作物や遊休農地、放任果樹の状態)調査を実施し、被害の要因(頭数が増えたのか、群れが増えたのか、被害が多い作物は何か等)を検討し、年度末には被害地域などで報告会を開催して今後の対策を検討している。また、各地区にサルの生態に詳しい巡視員を選任委託し、テレメトリーによる日々の遊動域調査を行い対策を検討している(図3)。

有害捕獲については、被害の状況等を考慮しながら日獣大と協議し、生息調査によって群れの個体数を確認しながら捕獲頭数や捕獲個体(性別、年齢)を設定し、銃器ではなく檻による捕獲を行っている。檻捕獲により、効率の良い捕獲や捕獲個体の性年齢の確認が行える利点があるためである。なお、捕獲の結果、これまでに分裂や群れの消滅は認められていない。捕獲個体は日獣大にて解剖され、栄養状態、繁殖状態の情報提供を受け、対策に活用している。

今後の対策と課題

現在、下仁田町・富岡市とも平成18(2006)年度に有害鳥獣対策協議会を新たに設立し、平成20(2008)年度には特措法に基づく鳥獣害防止計画を制定し、この協議会と防止計画を基に各種有害鳥獣の対策を行っていく方針である。また、平成19・20年度には国庫補助事業を活用して捕獲器の整備や環境整備を行っている。サル対策については、今後も日獣大と連携しながら生態調査や目標地を設定した追い払いを行い、誘因物の除去や山林と農地、住宅地の間に緩衝帯を設置するなどの検討・実施していくことを考えている。

いずれにしても、野生動物の被害対策を実施するには、地元住民の理解と協力が最も大切である。被害を受けている住民と受けていない住民との意識の差は大きく、被害を受けていない人から見るとかわいいとみられる子ザルも、被害住民からすると生活を脅かす憎い敵と認識される。また、被害地に住んでいない土地(耕作放棄地)所有者からすると、緩衝帯の設置や誘因物の除去等の作業は面倒な作業であり、被害については対岸の火事的と認識されるケースも多い。

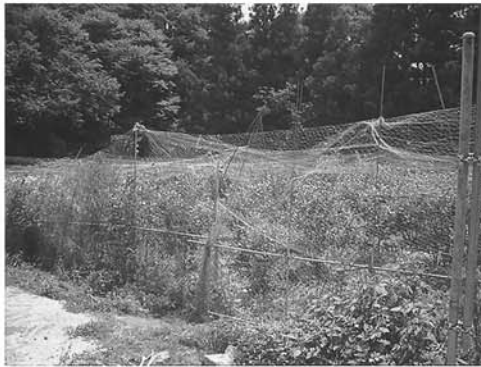
また追い払いの実施についても、有効な最終目的地野選定、およびその土地の所有者の理解が不可欠である。住民間の意識の差を埋め、理解を得ながら、有効な有害鳥獣対策は行っていく必要がある。電気柵や猿落等の防除施設の設置や緩衝帯の設置などについても、農業者の高齢化による設置労力の低下や農作物の価格低下による収入の減少により、整備費の負担が難しくなっているのが現状である。こうした諸問題を少しずつでも解消するため、補助事業等の有効活用やグリーンツーリズム的なボランティアの活用を行い実施していきたいと考えている。



a



e



b



f



c



g



d

図版 1

a: 電気柵とネットを活用した防除(妙義町菅原地区), b: 猿落と防鳥ネットを活用した防除(中小坂滑地区), c: 接近警報装置(中小坂二岩地区), d: 発信器を取り付けた個体, e: テレメトリー調査状況, f: 雑木の刈り払いによる環境整備(妙義町行沢地区), g: 放牧による緩衝帯の設置(中小坂虻田地区)

表1 発信器取付け状況（平成12年3月～平成20年7月31日）

取付日	捕獲地区	グループ名	個体名	性別	取付者	発信器稼働状況	その他
H12. 3. 14	上小坂中村地区	下仁田群		メス	山本貞司	未回収	故障
H13. 9. 14	中小坂二岩地区	下仁田群	サブちゃん	オス	山本貞司	H16. 2. 15 回収	上小坂中村地区で回収
H14. 3. 14	中小坂虻田地区	下仁田群	舞ちゃん	メス	日猷大	稼働中	
H15. 3. 17	東野牧坂詰地区	坂詰群	華奈ちゃん	メス	日猷大	未回収	故障
H15. 12	妙義町菅原地区	下仁田群	夢ちゃん	メス	日猷大	H16. 5. 4 回収	上小坂杉ノ木峠で回収
H16. 3. 15	中小坂二岩地区	下仁田群	裕佳ちゃん	メス	日猷大	H16. 10. 7 回収	中小坂二岩地区で回収
H16. 11. 30	西野牧滑岩地区	清水沢群	宏之君	オス	日猷大	稼働中	H17. 12に坂詰群へ
H16. 12. 4	中小坂虻田地区	下仁田群	弥生ちゃん	メス	日猷大	H17. 7回収	脱落下し回収
H17. 2. 18	東野牧山口地区	坂詰群	敦史君	オス	日猷大	未回収	故障
H17. 3. 28	妙義町菅原地区	下仁田群	裕佳ちゃん	メス	日猷大	H18. 2回収	脱落下し回収
H18. 2. 2	妙義町行沢地区	大牛群	ヨシエ	メス	日猷大	稼働中	
H18. 4. 21	妙義町行沢地区	大牛群	サチエ	メス	日猷大	稼働中	
H19. 2. 6	中小坂虻田地区	下仁田群	涼子ちゃん	メス	日猷大	未回収	故障？
H20. 2. 9	中小坂虻田地区	下仁田群	佳代ちゃん	メス	日猷大	稼働中	
H20. 7. 18	中小坂二岩地区	下仁田群	梅	メス	日猷大	稼働中	